棚田オーナー Jネットの田植え

多摩市　和久井　博（幸町出身）

上越市が数年前から「楽しい農業体験」として、棚田オーナー制を推進しており、Jネットも「ご協力しましょう。」ということでこれまで参加してきました。Jネットの会員が交互に「田植え」や「稲刈り」に参加し、文字通り、「楽しい農業体験」を経験しようというものでした。昨年は、三区画のオーナーになったのですが、スケジュールの関係で、ほとんどの人が参加できず、市の方から「今年は一区画で良いですね。」と念を押されてしまった次第です。

そして、今年の田植えの日程が決まったのですが、また、誰も参加できないということでした。私は、ちょうど松本での用事があったので、前日に上越市で田植えに参加することにしました。東京から車で前々日に上越へ行き、同行した友人を清里の坊ヶ池へ案内したついでに、清里JAの近くの雑貨屋さんで田植用の長靴を調達しました。立派な長靴でかなりの深い田んぼでも大丈夫な上物で五千円でした。友人は、「田植え用の長靴より、直接お米を買った方が安くつく」と笑っていましたが、確かに今後十回以上田植をやらないと元がとれない計算です。

翌日、朝早く、湯ったり村へ行き、時間に余裕があったので、周辺の散策をしました。まだ少し雪が残っており、山菜採りのグループが急な斜面を下っていくのが見えました。しばらくして、集合場所へ戻り、全員そろった所で、棚田へと向かいました。

実は前夜、松本から電話があり、予定の時間を早めるとの事だったので、私は折角の長靴だったのですが、田植えには参加せず、皆様の田植の写真を沢山撮って、早目に棚田を後にすることにしました。

写真を撮っている時に、参加者の一人から「和久井さん、久しぶりです。」と声をかけられました。日焼けした顔を良く見たのですが、思い出せませんでした。名前を聞いて判ったのですが、彼とは四十年以上も前に非常に親しくつき合っていた高校の後輩で、高校で英語の先生をしているとは聞いていましたが、今は定年で農業を楽しみながら悠々自適の人生を送っているのだそうです。

こんな楽しいハプニングは人生を素晴らしいものにしてくれます。

Jネットの皆様、是非、棚田へ行きましょう。きっと何か良いことがあります。